

## 令和5年度「ながの未来トーク」集約表

開催日：令和5年10月7日（土） 午後2時～3時40分

会場：朝陽支所（朝陽公民館分室）2階集会室

地元参加者：17人（男性 16人、女性 1人 参加者は住民自治協議会役員、区長等）

市側出席者：荻原市長、下平企画政策部長、花立地域・市民生活部長、中村朝陽支所長

集約担当：朝陽支所

会議形態：懇談会方式

## 【発言内容】

## 《発言1》

区長はみな同じかと思うが、役員を決めることがなかなか大変である。市なり県なり国なりの仕事をされた女性の方が、地元へ戻って活躍いただける形も面白いと思っている。組織の中にいらした方は、それなりの見識と知識がある。普通に考えれば70代ぐらいまでは活躍していただけるのではないかと思う。とにかく人、金、物。

問題がもう一つあって、いわゆるIT。区でも、紙媒体をできるだけ使わないようにといことやってるが、どうしても紙でなければという人もいる。

まず、人が何とかならないと、どうにもならないというところはある。何かいい知恵があったら、よろしく願いしたい。

## 《発言2》

市長は、長野市はスポーツ都市ということでスローガンを掲げている。特にスキー、スケートなどの冬のスポーツについては、長野市は戸隠、エムウェーブなどの資産を持っている。

自分が高校生の時に開催された札幌オリンピックの日の丸飛行隊などを鮮明に覚えている。当然、長野オリンピックも良かった。チャンスがあれば、また長野でオリンピックというのものもある。小中学生の冬のスポーツへの参画が必要ではないか。スキー離れなどもあるが、長野の特色ということも含めて、もう少し何かアイデアを出してやってもらえばと思う。

長野でも意外とスキーをやらない人が多かったり、若い世代は共働きなどで忙しかったりするの、シニア層の活用を上手くやってもらいたい。自分もスキーのインストラクターをやっており、スキークラブにも入っている。長野市を探せば色々な地元のスキークラブなどもあるので、そういったところのシニア層なども上手く活用してもらって、冬のスポーツを盛り上げてもらえばと思う。

## 《発言3》

区の財政が厳しいので、公民館の新築ではなく3千万円ぐらいの改修を考えているが、市の補助金は、新築ならば1千万円、改修の場合だと180万円であり補助金に大きな差がある。その比率も含めて検討いただきたい。

防犯灯については、平成7年から6年間にわたって毎年25件ぐらいの更新になる。1灯更新するために3万円ぐらいかかるが、今のところ2万円の補助である。1灯の差額が1万円で毎年25万円ぐらいかかってくる。地区によって数は違うが、数十万の出費が恒常的に続く。補助の増額をお願いしたい。

雑草の問題については、空き家の草、あるいは高齢者の家の草などある。公園の草については、今までは育成会や老人会、長寿会などをお願いしてきたが、子どもの数が10年間で3分の1になった。老人会、長寿会も新しいメンバーが増えず、草刈りをなんとかしてもらえないかという訴えがあった。市の公園緑地課に電話したが、市内に公園が約700あるので、申し訳ないが区民のボランティアでお願いしたいとのことであった。生業として、ボランティアセンターではないが、そんな草刈りの制度設計ができればと思っている。

区の役員のなり手がいないということについては、市職員や公務員の方々が退職した後、区の役員を引き受けるように、新規採用の時に誓約書を書けとは言わないが、市長の訓示の中に、ぜひ君たちは、これから頑張ってもらいたいけれども、その後も見据えてというように一言加えてもらいたい。新鮮な時に叩き込むと、もしかしたら頭の片隅に残るのではないかと思っている。

## 令和5年度「ながの未来トーク」集約表

市長は政策にスポーツを掲げているので、スポーツのメッカなど、長野市は何々のメッカと言われるようなものを期待したいと思うし、やるのであれば、市民の皆さんも金銭面も含めて応援してくれると思うので、我々を引っ張ってってもらえればと思う。

## 《発言4》

千曲川の問題であるが、屋島橋の上流にグライダー場があり、これを推奨、アピールしていくという話もある。千曲川河川事務所の問題だとは思いますが、中州の掘削等で水の流れをよくしてもらいたい。

屋島1号幹線排水路については、土木要望でも出してはいるが、用水路に土が溜まってしまってそこに草が生えて、草刈りを年2回やっているが、その処理が大変なので早めに土の撤去をお願いしたい。

朝陽総合市民センターの建設については、千曲川の越水、破堤なども考えると、1階建てではちょっと不安であり、しっかりとしたものを造ってもらいたい。小学校、中学校に一次的には避難できても、やはり学校なので、また1カ月ぐらいしたら出てもらうというようなこともあるので、ある程度総合市民センターに避難していただけるような施設にしておいてもらいたい。実際には車で避難する人が多いので、2～3階建ての立体駐車場を考えていただけるとありがたい。大豆島総合市民センターのように、隣に公園があると駐車場として使えるし、仮設住宅の場所にもなる。その辺も考慮して、しっかりしたものを造ってもらいたい。

## 《発言5》

現在、古牧朝陽線の工事を行ってもらっている。布野屋島線の先がどうなるかについてはまだ決まっていないが、千曲川の堤防までつなげてほしい。この堤防は、今は通勤道路になっていて朝夕の交通量がすごい。完成堤防ということで国の方で整備してもらっているが、村山橋から北は県道で南は市道として整備すると聞いている。ここへ古牧朝陽線をつなげてもらって、東西南北の幹線道路をしっかり作っていただきたい。そうすれば渋滞緩和にもつながる。

国の方で去年、カヌー乗り場を設置してくれた。また、市でも「かわまちづくり」ということで、遊歩道の設置を予定していると聞いている。堤防手前に新潟運輸があるが、ここの道路も広げていただきたい。

今年の朝陽小学校の運動会は、校庭が狭いので2班に分かれてやった。できるだけ早く小学校の整備をしてもらいたい。

## 《発言6》

朝陽総合市民センターの建設に伴い、現在の支所が入っている建物の後利用はどうなるのか。地区の公民館は古いため、建設場所も含めて今後どうするかについて区民全員にアンケートを行った。その中で、今の時代だから再利用できるものは再利用したらどうかということで、現在の支所が入っている建物を再利用できないか、という声を意見として伺っている。朝陽総合市民センターの建設については、現在の建物の後利用も含めて総合的に考えていただければ非常にありがたい。

区の公民館を建てるためには、数年前に見積もったところ最低でも8千万円はかかると言われている。市からは、条件さえクリアすれば1千万円の補助が出るが、その補助金についても何かしら見直ししていただければ非常にありがたい。

防犯灯については数が多く、1年に30基程度変えなければならない年がある。これを毎年やっていると2万円の補助では財政的に圧迫され、かなり厳しい状況になる。これについても2万円の補助ではなく、若干上げてもらえれば非常に助かる。

今、区で一番困っているのが高齢化である。例えば空き家になったところにアメシロが集った場合、区の四役が駆除している。一人暮らしの老人宅にアメシロが集った時も四役が出て駆除した。また、空き家の木がカーブミラーにかかって見えないということで、これも四役で伐採した。ゴミステーションの戸車が壊れた時も区の役員で直した。

市に「すぐ動いてくれる課」があれば非常に助かる。もっと高齢化していくと、こういったことが厳しくなっていくと思う。住民自治協議会と市で知恵を出し合って、何か良い方法がないかなという感じがしている。

## 令和5年度「ながの未来トーク」集約表

## 《発言7》

役員の後継者不足がひどい。一つの理由に、70歳を超えた方でも働いている方が多く、なかなか年中、区の行事に参加できない。また、区の役員が参加する会議やイベントなども非常に多く、仕事をしながら（区の役員になる）というのはなかなか難しい。やはり仕事をしながらでもできるような役員の体制を作っていないといけない。

市から住民自治協議会経由で降りてくる業務なども結構あるが、それも結局、最後は区の方へ回ってきてしまう。細かく言うときりがないが、少しでも一緒にできるものはまとめるなどしていただければと思う。

特に補助金関係の手続きが、大体3回か4回やりとりしないと終わらない。それを1回でも減らしてもらっただけでも大分負担は減ると思うので、そういった部分で少し見直しをお願いしたい。

公民館建設の関係については、やはり建替え費用で8千万円から1億円ぐらいかかる。補助が1千万円というのは正直大変なので見直しをお願いしたい。

防犯灯、高齢者、空き家等についても他の区と同様である。今年の調査では、約8%が空き家になっている。把握できていない部分を入れると10%近いと思われる。

草刈り等も、今年は特に夏が暑かったせいか草木の伸びが早く、公園関係でも大体年2回やっていけばよかったものが、今年はまだ3回、場合によっては4回必要となっており、これから温暖化が進むと、もっと大きな問題になってくるのではないかと。

## 《発言8》

北八幡川については、今年は法面の木などを除去していただいた。2、3年お願いしていたが、今年ようやく地蔵橋から交番の前まで全部綺麗にさせていただいた。2、3年は大丈夫というお話は聞いている。

やはり役員選出に苦慮している。定年退職の年齢が上がってきているということで、なかなかその対象となる方が少なくなってきて、かつ、これまでの人たちが高齢化していく。それ以前に関心がない、やりたくないというケースもあり、それを含めてなかなか難しい問題である。

空き家が綺麗になって、土地が分筆されて家が建って若い世帯が増えてきているが、世代間の交流がなかなかできておらず、同じ町内にいても誰か分からないというような状況がある。

ちょっと訳ありの空き家があり、何年間か悩んだ問題がある。除草などをしようと思っても難しいところがある。その辺も何とかならないか。所有者の問い合わせをしても、個人情報関係で教えてもらえないなど、なかなか難しい問題ではある。

福祉については、高齢化が進んできて、ごみ出しができないなど身の周りのことが思うようにできなくなってきている人たちが増えてきている。これをどうするかというところはすごく大きな問題だと思っている。民生委員を含めて、地域包括センターなど全部巻き込んで考えていかないと、区の中だけでやろうとしたときには、区全体が施設になってしまうということも考えられるので、ここはなかなか難しい課題が多い。

防犯灯については、他の区ほどの費用負担はない。

## 《発言9》

朝陽地区の活動拠点である総合市民センターの早期建設と、朝陽小学校とその付近の環境整備の促進を要望している。

また、朝陽小学校の校庭が狭い、朝陽公民館前の歩道が狭いので何とかして欲しいといった要望がある。

## 《発言10》

新しい総合市民センターには、大豆島地区にあるような防災倉庫を設置してほしい。

避難所に関する件では、エムウェーブが避難所にはなっている。令和元年の台風19号災害の時にエムウェーブに避難した方がいたが、避難所として開設していなかったため建物の中に入ることができず、エムウェーブの2階の外側にいた人達がいたということがあった。避難所の開設情報などを住民に迅速に伝えて欲しい。

## 令和5年度「ながの未来トーク」集約表

区長にしても、避難しろと言われても情報がなければどこに避難してよいか分からないし、指示もできない。また、高齢者がインターネットで情報を取得することは難しい。よくある「ホームページをみてください」はちょっと困る。高齢者が避難場所に行くにしても、遠くて行けない人いるので、災害時に避難する場所を増やしてほしいという意見も屋島の方からいただいている。

## 《発言 11》

住民自治という中で、長野市から下りてくる社会福祉に関してやらなければならない事項が、任意ではあるがかなり多い。住民自治といっても、ボランティアの中でどうやって処理していったらいいのかということ。課題が非常に多くて、なかなか進められない。どこまでやるのかという中で、今、介護保険の問題もあって、何かやろうとすると介護保険の関係でストップがかかるなど、いろいろな課題がある。

以前、市長も言ったかと思うが、あまりにも都市内分権という中で、各住民自治協議会に下ろしすぎではないか。もっと市が主体的に動いてもらわないと問題解決にならないことが結構多いと思う。先日、事業の問題点を出してくれと住民自治協議会事務局からも言われたが、余りにも多くて、全部挙げたら1冊の本ができるのではないかぐらいの問題がある。市長に話すというより、担当部署と意見交換ができるような場を作ってもらいたい。ちょっと負担が多いというのが現実である。

令和2年度に市から示された総合市民センターの建設のロードマップによると、ゴーサインが出てから完成までに8年間かかるということである。用地買収に時間がかかれば15~16年になるかもしれない。それはそれで進むとして、既存の公民館の備品関係が非常に老朽化している。館長に話しても、なかなか市が予算をつけてくれないと言われる。市長に見捨てられているのではないかと思うぐらいの老朽化した設備。施設自体の老朽化はやむを得ないが、備品関係が非常に老朽化していて、本当にあと15~16年、このまま使えるのかということである。

各地区の公民館にお邪魔するが、建物は古くても備品関係はしっかりしたものを使われている。朝陽の現状を見ると、他地区の役員さんをお招きできない、そんな非常に悲惨な状況がある。建設完了までに、あと15~16年かかるのであれば、備品を取り換えるということを実際に考えていただく必要があると思っている。

## 《発言 12》

教育・文化部会で事業展開している中で、講座等によってもたらされるものが住民の方々にどの程度認識されているか疑問であると感じている。また、お母さん方も子供たちも忙しく時間に追われている。企業の方にも、朝陽地区住民自治協議会の実情等を理解していただいて、地域社会に貢献するという含めた働き方改革ということをお願いしたい。そしてお母さん方や企業に勤めている方が地域の活動、行事等に少しでも参加しやすくなるような雰囲気となるようお願いしたい。

地域の方々に無関心の方も結構増えているのではないかと思う。朝陽地区で朝のあいさつ運動をやっており、育成会のお母さん方に立ち会いをお願いするが、朝の忙しい時に30分ぐらい立ってあいさつ運動に参加するというのも、ちょっと煩わしいので考え直して欲しいという意見も多数承っている。そんなところでも企業の方々に理解していただき、少しでもお母さん方が参加できるような雰囲気を作っていただければありがたい。

育成会長から、子ども食堂や大人食堂などがあるが、高齢者の方と子供たちの交流がもっとあればいいという話があった。お母さん方は朝、子供の送りや食事の支度、自分の出勤などで忙しい。お年寄りなどとの交流の場があれば、一時的にでもそういうところに小さいお子さんを預けて自分の仕事に専念できるようになって楽になるのではないかと話されていた。子ども食堂や大人食堂などに高齢者の方などに集まっていたら交流を深めていけば、もっとお互いに顔見知りになっていくのではないかと思う。

先ほど無関心というお話があったが、確かに無関心の感じがしている。育成会の方から、回覧などをして読み聞かせの募集をしたが、数名程度の応募者しかなくがっかりしたという話があった。回覧も、苦勞して印刷して仕分けて一つの荷物にまとめて区長さんに配布をお願いしているが、どれほどの地区の方がこれを読んで、理解しているかというのもちょっと疑問に感じているところもある。関心のある方は見るが、無関心の方もいるし、アパートなども増えて住民の方の入れ替わりも早いと思うので、どれほどの効果があるのかというのも考えている。

## 令和5年度「ながの未来トーク」集約表

育成会の方から、育休に入った途端に保育園に預けていた長男が退園を求められたという新聞記事があったが長野市はどうかという質問と、高校生まで医療費の補助が延長されるとことに感謝しているという話もあった。

## 《発言 13》

公民館部会として提案、意見、要望等は特段ないが、個人的な感想として、各区長さんから役員のなり手がいないというようなお話があった件で、去年、私は公民館長をやった。ちょうど今頃から、当時の副館長と私の2人で、何日も、全部で20~30軒ぐらい、次年度にお願いできないかということをお願いに回った。

先ほどの話のように、非常に無関心でもあるし、やりたくないということもあるし、一度この役員を引き受けてしまうと、次の役員を決めるのは大変だということを皆さん分かっているのでもやりたくない。今の南堀のやり方では、現在の役員の人づて、顔づてでお願いするしかない。過去2年ぐらいお願いがあったうちで、その方は長野市の職員だったが、こういう理由で引き受けられないとはっきり言ってもらえば納得できるが、できないと言うだけでお話にならない。中には、ご本人がいるのに本人を玄関先に出さないで、奥さんが玄関に来て、うちはできませんと言うお宅も非常に多かった。何とか役員の選出についていい方法があればと思うが、なかなか難しい。

ちょうど今ごろから、各区、それから各公民館の役員さんも来年度の役員を決めなければいけない時期になってきているということで、非常に大変だと思う。

## 《発言 14》

朝陽地区では、広報紙「輝くあさひ」を年4回発行しており、広報部会ではこのための取材等を行っている。コロナ禍までは、行事等が主な記事だったが、コロナ禍以降は講座やセミナーなどになってきて若干厳しい状況である。

人材についても、なかなか部会長をやってくれる人がおらず、私が部会長を続けている。

広報作成の過程では、各部会の担当が8人おり、それぞれに取材をして記事を書いて私のところへメールで送ってもらい、それをそのまま業者に発注している。メールで全てやるのは大変であるが、それでもなんとかやっている。

## 《発言 15》

社会福祉の事業は非常に幅が広く、やることが本当に多いなと感じている。

みなさんのヒントになるか分からないが、埼玉県のある中学校で、大人と中学生が向き合って質問を投げかる「トークフォークダンス」という交流があって、高齢者、大人と生徒の関係性が上手くできたということで、これを11月20日に上山田中学校でやるそうで、参加者を募集している。我はと思う人はぜひ参加を。一つの世代間交流を進める方法として、こんな方法があるということをお伝えしておく。

先日、三陽中学校で「れんげ祭」があった。私あてに招待があって行ってきたが、本当に寂しいことながら、招待があった人で、私がお会いしたのは北屋島の区長と民生委員の1人だけだった。古牧は2人しかいなかった。もっと地域と学校との関わりということでせっかくのチャンスなので、参加してもらいたかったと思う。

## 《発言 16》

住民自治協議会の主な収入源は、市からいただいている地域いきいき運営交付金と各区からいただいている負担金である。

今年度は、行事、事業等もだんだんコロナ前に近づいてきて、結構お金も使っていただいている。今、物価もかなり上がっているのでも、それに伴い物価の上昇率も加味してもらい、ぜひ交付金の方へ反映させていただきたい。

ボランティアの関係では、今、朝陽地区には、有償も含めてなり手というか担い手がなかなかいない。私も今、福祉自動車の運転のボランティアをやっているが、やはり高齢化していて、ほぼ70歳以上の方が担っているというのが現実である。75歳ぐらいまでというような話もあるので、どういう形で今後募集していけばいいのかということも課題かと思う。

## 令和5年度「ながの未来トーク」集約表

必須・選択事務というのも、もう一度見直す必要があるだろうと思う。選択といってもかなり必須に近い選択事務である。選択もほぼ全て見直さなければならないというようなものがたくさんあるので、その辺の振り分けを、地域・市民生活部長の方でやっていただいていると思うが、中身をよく吟味していただいて、ぜひ洗い直していただきたい。

## 《発言 17》

朝陽公民館で一番利用率が高いのは、集会室という体育館である。他の新しい施設では、川中島町公民館だけはバレーボールぐらいはできる集会室があるが、大豆島公民館にはそういった機能がない。バレーボールが無理であればソフトバレー、バドミントン、卓球ぐらいはできる集会室でないと、今の利用者たちも不満になってしまう。朝陽体育館があるではないかと言われるが、スマホやパソコンで予約しなければならない。この施設を利用している人達の中心は高齢者で、ここに申し込みに来て、話をするなど我々と交流がある。これも非常に大切なことなので、ぜひ新しい施設には、体育館的な要素を含めた集会室を作ってもらいたい。

朝陽公民館では、住民自治協議会の公民館部会と共催で、10月29日に朝陽地区親善球技大会を予定している。小学生はドッジボール、大人は、野球、バレーボール、ペタンク、グランドゴルフで、子供から高齢者までの総合的な球技大会であるが、なかなか野球とバレーボールに人が集まらない。スポーツが多様化しているということもあるが、公民館長の立場としても、もう少しスポーツを進めていこうと思っているので、大会が成功するように選手集めにも協力しているところである。

この球技大会では、屋島グラウンドで野球をやる予定でいたが、グラウンドの整備がされておらず、急遽長野東高校にお願いして東高校サブグラウンドを確保した。スポーツ施設は市内に数多くあるので、きっちり管理整備するのは無理かもしれないが、整備をお願いしたい。

先ほど公民館の備品が老朽化しているというお話があったが、その通りなのでよろしくお願ひしたい。

## 【市のコメント】

## 《下平企画政策部長》

公園の草刈り等については、いろいろな声をいただいている。愛護会という制度もあり、若干ではあるが報酬も出しながらやっているのでも、活用いただければありがたい。小さなものまで含めて市の公園が非常に多く、今後どうしていくかというのは非常に大きな課題だと認識している。

千曲川の掘削については、千曲川河川事務所の方で計画的にやっていくということではあるが、国への要望とともに、屋島1号幹線排水路については担当の農地整備課にも話を繋いでいきたい。

古牧朝陽線の堤防までの道路については、地元の期成同盟会とルートについてようやく話を始めたところであり、今後の協議をよろしくお願ひしたい。

空き家については、長野市中で空き家が増えている実態がある。市では空き家対策室、また移住推進課では空き家の活用を行っている。空き家で困っているという話などがあれば、市へお伝えいただきたい。市が持っている情報の中で、市から空き家の所有者に通知することはできるので、その辺も含めてお願ひしたい。また、空き家の荷物を片付けて、貸すなり売るなりを考えている方がいらっしゃれば、空き家バンクに登録していただくと、今7割程度が成約しているというような状況であるので、心の隅に止めていただければと思う。

地域の無関心というようなお話については、コロナの影響で行事をやらなくなって、そのままであるとか、こんなコロナ禍で本当に運動会をやるのかといったお手紙を市にいただくなど、コロナで人の関心も変わっているところもある。簡略化できる場所はし、また5類に移行した中で、地域として伝統を繋いでいくところは元に戻していくなど、徐々にお願ひしたい。

地域の役員のみならず手について、職員のことでも大分ご意見をいただいた。職員も、しっかりやっている人はやっているが、皆さんにご指摘いただいているところも踏まえ、市の中でも考えていきたい。

## 令和5年度「ながの未来トーク」集約表

## 《花立地域・市民生活部長》

防犯灯については、灯部が使える限りは使っていくという方法もあるのではないかという議論も内部でしている。もう少し更新期間を延ばしていったり、1年間当たりの負担を減らしていくこともご相談をさせていただくことがあろうかと思っている。また、補助申請のやり方が結構大変だという話については、オンラインでの申請の方向で考えている。写真を撮っていただいてその写真をオンライン上で添付して送っていただくなど、できる限り手間を減らしていこうといった方向も考えているので、またご案内したい。

区の役員、区の仕事については、なかなか特効薬はないが、市の職員には、住民の皆さんと一緒にまちづくりをしていくという意識を徹底させていきたい。市の職員に対する期待は大きい、ということも、もう一度、庁内で話していきたい。

女性の参画というのが一つ大きなポイントだと思っている。これも特効薬はないが、朝陽地区には女性の役員がいて、1人いると随分違うなという印象がある。女性だからこの役、例えば日赤奉仕団とか白バラといったようなところへ女性をすぐ充てていく傾向があるが、女性の方でも、とても元気な優れた方もいらっしゃるの、区長などさまざまなところへ推薦をしていただければありがたい。やはり、区の活動の中で女性の意見を聞いていく、あるいは子どもの意見を聞いて何かを考えていくというような風潮を、少しずつでも作っていただくとありがたいと思っている。どうしても区や自治会というのは、基本的に世帯単位で動いているので、専ら世帯主の方が総会に出て票を投じてくるとか意見を言うというのが多いが、本当はその世帯員の方、女性やお子さんを含めて自治会活動が動いていくようになると、またちょっと雰囲気が変わるのではないかと考えている。

業務の点については、これまでと同じようなやり方で自治活動をしていくというのはかなり難しいだろうという基本的な認識がある。そうした中で、今回たまたまコロナがあって自治活動が停滞したが、これを一つのチャンスと捉えていただくような形で、区や自治会の活動のあり方というの、少し見直していただくというような機会にさせていただければありがたいと思っている。

また、役員の皆さんの負担を減らしていくという意味でも、今後どこかで、住民自治の場面においてもICTの活用が必要になってくると思っている。他の地区では、区長には住民自治協議会でタブレットなりパソコンを配って、そこにデータを保存してそれを引き継いでいくというようなやり方をされているところもあれば、全国的には電子回覧版といったものも実用化されているところもある。これはお金がかかる話なので、市の方でも考えていかなければいけないと思っている。

先程、住民自治協議会等における福祉活動の関係で、もっと市が主体的にやるべきではないかというお話をいただいた。全くおっしゃる通りで、これまでどちらかという住民の皆さんにお任せし過ぎていた傾向があると思っている。ご指摘の介護保険関係の生活支援体制整備の関係、特にこれから地域で支え合っていく仕組みを作っていく、その芽出しをして課題をまとめて、それを展開していくというのは、かなり専門的な仕事だと思っている。これも今回の住民自治協議会の見直しの中で、これまでは住民自治協議会さんに雇用をいただいていたけれども、本来は市なり社協がやっていく仕事ではないか、というような視点で見直していきたいと思っている。

逆に、その地域福祉の一番の底力というのは、住民の皆さんの顔が見える関係において、小さな支え合いがとても大事だと思っている。例えば、先ほどのごみ出しの問題であるとか、本当に100メートル歩くのが大変なお年寄りが増えてきているので、地域で支えていただけるような仕組みを作っていくという思いもあり、市との役割分担の点で言うと、本当に地元の顔が見える関係でいる住民の皆さんにしかできないことを基本として役割分担を考えていくべきなのではないかと思っている。

必須事務、選択事務の見直しも、市で勝手に決めるのではなく、先ほどご提案いただいたように、住民の皆さんの実態等を踏まえて、私ども住民自治のセクション、それから福祉のセクションなどと一緒に住民の皆さんとワーキンググループのようなものを作って、その中で少し具体的にお話をして、それをもって全体でまた話をしていく。そんな仕組みをとっていききたいと思っている。

総合市民センターの建設時期については、基本的にはこれまでと同じ回答になるが、既に候補地としてご提案をいただいているので、庁内で改めて発破をかけて検討を進めていきたいと思っている。またご相談をさせていただきたい。

## 令和5年度「ながの未来トーク」集約表

## 【市長総括】

## 《荻原市長》

皆さんから貴重な、いろいろなご意見いただいた。

住民自治協議会は、鷺澤市長が当時、住民自治あるいは都市内分権を推進していく、という大号令のもと、この住民自治協議会が始まり、長いところで18年ぐらいになってきた。ただ時代が大幅に変わっているのはもう皆さんご承知の通りである。高齢化が進展し、子どもたち、人口が減っている。一方で世帯数は増えている。みんなが個別に住んでいて、地域の繋がりというのは、昭和の中頃のような、人が大勢いたり地域の活動が盛んだったり経済も豊かだったりという時代がもう大きく変わっている。行政としても、住民自治協議会だけではなく、行政運営そのものも変わっていかねばいけないと思っている。

だから私も役所の中で、例えば何でこの事業をやっているのかと聞いたときに、昔からやってきたからというような説明がつかないようなものは、どんどんやめようという話をしている。例えば補助事業で多くて年に2件のような、本当にやっている必要があるのかというものを徹底的に整理しながら行政改革を進めているつもりである。

長野市が、徹底的に都市内分権を進めた中で、ちょっと地域の皆さんに押し付け感というものが増大してしまったのかなということもあるし、もちろん人口が減少していく社会の中で、地域によっては、それこそ人がいなくなって高齢化が進んでしまっているので、場合によっては、住民自治協議会という取り組みは一旦お休みにして、ある種、市の直営、当時のような形にしていった方がいいのではないかとということも、真剣に考えていかねばいけないのかなと思っている。しっかり整理をして、時代に、地域住民の皆さんのニーズに合った形にしっかり整えるよう、徹底的にやらせようと思っている。

今、いろいろな会議も持ちながら皆さんからのご意見をいただいている最中で、今日も改めて皆さんからご意見をいただけて非常に良かったと思っている。こういう機会は年に僅かだが、非常に貴重な機会だと捉えている。また時、場所を変えて、ぜひ皆さんからご意見をいただけるような機会を作っていただきたい。今日いただいたご意見をしっかり市役所の方に持って帰りたい。

市の職員には、事あるごとに地域活動をしっかりやるように、ということはある。また徹底したい。